

会 議 録	
会議の名称	令和元年度第3回清須市地域公共交通会議
開催日時	令和2年1月9日（木） 午後2時から午後3時20分まで
開催場所	清須市役所北館2階 第1・第2会議室
議題	1 開会 2 議事 〔協議事項〕 （1）令和元年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について （2）清須市地域公共交通計画（案）について 3 その他 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席表 〔会議資料〕 資料1 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価の概要 資料2 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案） 資料3 清須市地域公共交通計画策定のながれ 資料4 清須市第2次地域公共交通網形成計画素案からの主な変更点について 資料5 清須市地域公共交通計画（案） 資料6 パブリック・コメントの実施について
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	なし
出席委員	前田委員、山田委員、林委員、後藤委員、加藤（榮）委員、鬼頭委員、加藤（博）委員、上井委員、渡邊委員（代理）、田島委員、多田委員、小林委員（代理）、大島委員、宮崎委員、長谷川委員
欠席委員	佐藤委員、安井委員、渋田委員
出席者（市）	なし
事務局	（企画政策課） 後藤企画政策課長、服部課長補佐兼係長、河村副主幹、石附主査、次森企画政策課主事
会議録署名委員	林委員、後藤委員
1 開会 （服部課長補佐兼係長） 定刻となりましたので、ただ今から、令和元年度第3回清須市地域公共交通会議を開会いたします。 私は、企画政策課の服部です。よろしく申し上げます。 それでは、開会にあたりまして、前田会長からごあいさつをいただきました	

いと存じます。前田会長、よろしく願いいたします。

(前田会長)

皆様、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

本日は、大変お忙しい中、令和元年度第3回清須市地域公共交通会議へご出席いただきまして、ありがとうございます。

また、日頃、皆様には本会議の運営等に多大なご理解とご協力をいただいております。重ねてお礼を申し上げます。

さて、本日の会議では、次第にございますように、「令和元年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について」と「清須市地域公共交通計画（案）」についてが議題となります。皆様どうぞよろしく願いいたします。

簡単ではございますが、これで私のあいさつに代えさせていただきます。

(服部課長補佐兼係長)

ありがとうございました。

それでは、本日の会議の出席状況について、ご報告します。

本日の欠席委員は、第1号委員の佐藤委員と、第4号委員で愛知県尾張建設事務所維持管理課長の安井委員、第5号委員でつばめユニオン委員長の洪田委員です。

また、他の公務のため、第4号委員で愛知県都市整備局交通対策課の渡邊委員におかれましては児玉様に、第5号委員で愛知県バス協会専務理事の小林委員におかれましては栗木様に代理でご出席いただいております。みなさま、どうぞよろしく願いします。

それでは、これより議事に入りますが、ここで、事務局からお願いがございます。当会議の議事録を作成するため、会議でのご発言にあたっては、次の2点についてご協力をお願いいたします。

まず1点目ですが、ご発言にあたっては、必ず挙手の上、会長の指名を受けてください。

2点目ですが、会長の指名を受けた委員様には、係の者がマイクをお持ちいたしますので、その都度、ご自身のお名前を仰っていただいてからご発言くださいますよう、お願いいたします。

それでは、ここからの進行は前田会長にお願いいたします。

2 議事〔協議事項〕(1) 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について

(前田会長)

それでは、ここからは私の方で会議の取り回しをさせていただきますので、よろしく願いいたします。

まずはじめに、会議録の署名委員を指名したいと思います。

本日の会議録署名委員は、座席の順に林委員と後藤委員にお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元の次第のとおり、協議事項が2件となっております。

まずは次第の順に（1）「令和元年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について」を議題とします。

それでは、事務局から説明してください。

（次森企画政策課主事）

【資料1、2を説明】

（前田会長）

ありがとうございました。

ただいま、事務局より説明がありました。この協議事項について、各委員さんから、ご意見やご質問等がありましたら挙手をお願いします。

（上井委員）

愛知運輸支局の上井です。評価に至る過程など、丁寧にまとめていただきありがとうございます。

私ども、国のほうでは、資料2の別添1と別添1-2、これが、全国で統一された様式ということで、これを出していただくことになります。

もしできましたらなのですけれども、資料2の別添1となっているほうの、⑤の欄の分析①に、「利用者が別のルートに移り目標を下回った」と記載があります。この、別のルートというのがはっきり分かっているのであれば、具体名を書いていただいたほうがよろしいかと思えます。

私ども、運輸局としましては、これを提出いただいた後に二次評価をしていく流れになっていきます。以上です。

（前田会長）

ありがとうございました。他に、委員さんから何かございませんか。よろしいですか。

ないようですので、副会長からご意見をいただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

（加藤副会長）

今まで検討してきたことは一通り書いてあると思えます。あえて言えば、資料1に利用促進策というのが書いてあるわけですが、資料2の別添1の⑥改善点のところを見ると、具体的にどうするかというのは、もう少し書いたほうがいいのかと思いました。

ですが、構図としては、やったことが色々ありますので、それをずらっと書くのもどうかと思えますし、計画策定もしていますので、計画策定をすることで書けることもありますから、今の段階ではこのくらいなのかと思います。

また、認知度については、本当にこんなに高いのでしょうか。9割以上というのはなかなかないと思えますが、アンケートの結果がこうであったならば、これでいいです。

これは中身が問題で、あるのは知っているけど、あることしか知らないとかいうのはまずいです。新しいルートになって、ダイヤが1時間に1本とか2時間に1本とかいう分かりやすいダイヤになったので、そのくらいのことを知ってもらえているのかという話なのかなと思います。

他の自治体の網計画だと、中身まで知っているのかとか、主にどこまでバスが走っているか知っているのかとか、そういうことも含めてアンケートをとって聞いていたりします。清須も以前やっていましたね。アンケート調査は、来年度またやるのでしたっけ。

(次森企画政策課主事)

はい。来年度のできるだけ早い時期に、前回のルート・ダイヤ改正の評価を兼ねてやろうと考えていますが、質問項目などについてはまだこれから詰めるところなので、今いただいたお話も含めて検討していきたいと思います。

(加藤副会長)

分かりました。アンケートをやることで、リアルな状況が分かります。大学のような客観的なところが主体になってやると、バスを知っているのか知らないのかを聞くようなやり方になりますが、そうではなく、行政や地域公共交通会議としてやるのであれば、アンケートを通して、こんなものがあるよというのを知ってもらうというのも大事なかなと思います。

あとは、鉄道とか他のものも含めて、どういうふうに使えるかというのも、また改めて色々と考えていかなくちゃいけないと思います。あしがるバス単独ももちろんそうだし、他の鉄道やタクシーと合わせてどういうふうに清須でお出かけできるかというのは、色んな団体さんとか、そういうところでも議論していただけるといいです。是非、そういう営業もしていただけるといいなと思います。

(前田会長)

ありがとうございました。

事務局は、今副会長からいただいたご指摘など、適宜対応していただければと思います。

委員さんから、他によろしいですか。

ご質問も無いようですので、ここでお諮りします。

本件に関しまして、事務局案のとおりご承諾いただくということでよろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

それでは、これで協議事項の議題(1)を終わります。

2 議事〔協議事項〕(2) 清須市地域公共交通計画(案)について

(前田会長)

続きまして、(2)「清須市地域公共交通計画(案)について」を議題とします。

それでは、事務局から説明してください。

(次森企画政策課主事)

【資料3～6を説明】

(前田会長)

それでは、この協議事項について、ご意見、ご質問等がありましたら挙手をお願いします。

(上井委員)

愛知運輸支局の上井です。一点確認だけなのですが、資料5の14ページで、基本方針Iの①のところに、達成指標として、「鉄道との乗継を考慮したあしがるバスのルート設定」というのが追加されたということでした。この指標の中では5つ挙げられていまして、何かこの順番について、重要度ですとか、あるいは全部同じなのかとか、その考え方だけお聞かせいただけたらと思います。

(次森企画政策課主事)

順番については、優先順位があってこのように載せているわけではないので、全て同じという認識です。

(前田会長)

よろしいですか。ありがとうございます。

他に委員さん、何かございますか。

(多田委員)

タクシー協会多田と申します。

一点、意見というか修正をお願いしたいということと、若干の補足をさせていただきます。

資料5の15ページの実施策⑨のところで、「タクシーサービス等に関する情報発信」という項目がございます。実施主体はタクシー事業者と市とありますが、ここを、タクシー協会とタクシー事業者・市の三者という形にさせていただきたいというのがまず一点目のお願いでございます。

具体的にはどういうことかと申しますと、以前この会議でも申し上げたことがございますが、今後、タクシーのサービス、利用方法というものが、いわゆるスマートフォンを使った中で、劇的に変化をしていくと思えます。それを、個々の事業者ではなくして、タクシー協会のホームページを介して色々な情報を発信していきます。具体的には、事前確定運賃はどんなものですか、また、制度的にははっきりしていませんが、相乗り運賃とはどういうものですか、更には、どこの事業者のどういうタクシーに乗ると使えるんですかというようなことも含めて、私どもタクシー協会が整理し、ホームページで情報発信していくことを想定しています。そういったものを、清須市さんのホームページとうまくリンクすることによって、利

用者の方々にお知らせをしていくということです。

また、21 ページを見ていただくと、一番上に実施施策⑨というのがあるんですが、要は、これだけの記載で、住民利用者の方に今お話ししたような意図が伝わるかというのは怪しいなと思います。書きぶりをどうするのか、要は、事前確定運賃であったり新しいタクシーサービスとは一体何ですかということが、これでは全く分からないと思いますので、それが悩ましいところだということも含めて、ここは市の担当の方と今後少し詰めさせていただければなと思っています。

また、もう一点ございまして、これは、先生と運輸支局さんに聞いたほうがいいのかもかもしれません。資料5の1ページの法的位置づけの部分で、活性化再生法の法律改正の話がございました。この法律の中で、協議路線・協議運賃の話は、地域公共交通会議で決めればできますよということになっていますが、これは、今後どういうふうに位置づけをしていくのでしょうか。現状ではあまり整理されていなくて、そんなもの当たり前だっという話なんですけれども、どういうふうに考えたらよいのでしょうか。私もよく理解ができていないんですけれども。

(加藤副会長)

ちょっとよく分からなかったのですが、会議の設置要綱で、この会議は、活性化再生法の協議会であり、道路運送法の協議会に位置づけられているので、要綱通りやればよいと思いますが、その話ですか。

この計画自体は、協議運賃がどうかというのは関係ないというか、ツールとして、そういった議論はこの会議でやれるよということですが、それは自明なので、特にここに書くということはないと思います。

ちなみに、要綱はこの計画に入っていますか。

(次森企画政策課主事)

要綱は72ページに載っています。

(加藤副会長)

大体最後のほうにあるので、この計画は最後はないなと思ったらその前にありましたね。ここの第1条に、道路運送法及び施行規則、それから活性化再生法の規定に基づくとあって、第2条の(1)と(2)が道路運送法上の役割、(3)が活性化再生法上の役割です。

(前田会長)

ありがとうございます。多田委員さん、よろしいですか。

(多田委員)

大丈夫です。

(前田会長)

ありがとうございます。

この他に委員さんから何かございましたらお願いします。

(加藤副会長)

では、もう一つよろしいですか。ここで何かどんでん返しとかするつもりは全くなくて、素朴な話だけです。

清須は、ずっとこの会議をやってきて、何がテーマかと言うと、名古屋へ行くと言ったらほとんど不便は感じないんですけど、名古屋へ行くよりも市内のどこかへ行くほうが遠く感じるというところなんです。それが問題とも言えるし、いやいや清須というのはそういう市なんだと思ってしまえばそれでいいのかもしれませんが、合併でできた市でもあるし、もうちょっと市内にも色々なものがあるんだから、その中で色んなことができるようにしようねっていうのがもともと動機としてありました。

あしがるバスもできたし、この計画もやっぱりそういうことを前提に作っているんで、そういうふうにもっと動きを作って、その中でバスに乗っていただくというのが、暗黙の前提としてあるわけです。それが、そのような認識がない人たちがこの計画を見たときに、非常に偏った計画に感じるということがあるのかなんかの少し気になります。というのも、僕も10年くらいこの会議をやっているものですから、当たり前と思って見てしまっているのですが、例えば、あしがるバスの認知度は高いんだけど、実際利用している人が、今、計画に出てきた数字では、何パーセントでしたか。

(次森企画政策課主事)

平成30年度の市民満足度調査では、16%です。

(加藤副会長)

目標としては、今後それを上げていくんですよね。

(次森企画政策課主事)

上げていきます。計画では、基準値から上昇という書き方をしております。

(加藤副会長)

そうなんですけど、実はそのことというのは、とにかく乗れっただけでは駄目で、やっぱり、名古屋をつい見ちゃうんだけど、市内にももっと色々あるよということを皆さんに認識してもらおうということとセットでやっていかないといけないんだろうなと思うので、そういうことはやっぱりぶっちゃけで書いたほうがいいんじゃないのかなと思います。

名古屋のことだけだったら、この計画はいらないのかもしれない、と言うと少し言い過ぎかもしれませんが、十分できるし、あるいは市役所でできることは非常に限られてしまうというか、市役所自身が、名鉄とかJRの電車を増便するとかそういうことは困難だと思います。そこで、市として、市の中でもうちょっと色々できることがあるんじゃないかというのがあって、このバスがあります。

あとは、多くはないと思うんですけど、一応鉄道との接続のことを言っているというのは、市の中でも駅から遠いところがあるので、そういうところなんかは、このバスに乗って駅まで行って、というのを想定していま

す。春日なんかは特にそうですね。あと新川住宅なんかも。

そういうのをやっていくという目的があるんだけど、それと並んで
というか、もっとずっと言ってきたのが、市内で色んなところに行けるよ
うにということですね。その施策と整合しているかということと、計画を
読んでいる方に、そういうことが分かっていたかということが大切
です。ある意味、非常に違和感を覚えられると困るなというのがあります。
これは私たちに関係ない計画だと思われたりとか、こんなのは全然求めて
ないと思われるのは困るなと思います。

これは、審議というか、委員の皆さんもここで聞いているからそういう
ふうに思われるのが自然なのかもしれないけど、例えばご家族にも聞いて
みたら、「ん？」と思われるようなことがあるのかなというのが気になり
ます。これは、ずっと凝り固まってやっているの、せっかくですので、
今少しお聞かせいただけませんか。後藤課長はどうですか。

(後藤企画政策課長)

私も今年から公共交通に関わるようになって、バスの認知度が非常に上
がって、利用のニーズが上がっているというのは分かるんです。今回の計
画を作る中でも、先生がおっしゃるように、ただ乗ってくれと言うだけで
は駄目だというのは認識しています。

また、実際に、ブルールートを作って、循環バスを導入しました。ただ、
循環なので、端から端まで行くときに時間が余分にかかるとか、そういう
のも見えてきたというところもあります。なので、循環バスが良い悪いと
いうのも含めながら考えなくてはいけないと思っています。特に、今私の
一番の懸案になっているのは、グリーンルートの乗車数の増加、これに今
後どう対応していかなくちゃいけないのかというのは考えています。

計画自体は、自分たちで作っているの、正直、何とも評価のしようが
ないです。今先生がおっしゃったように、市民委員の方々の意見がいただ
けるとありがたいです。なので、順番にお聞きしようかなと思います。よ
ろしくお願いします。

(前田会長)

それでは、山田委員さんからどうぞ。

(山田委員)

山田です。今のお話で、私もたまにバスを利用するんですが、家族がど
う思っているかということ、非常に不便だと言います。何が不便かという
と、時間がかかりすぎる、なぜ余分なところへ回るのか、真っすぐに行けば早
いのに、ということです。

もう一つは、私は市内で勤めているんですけど、その家族は、バスだ
と非常に時間がかかって、電車で行ったほうが早いということをお
言います。以上です。

(林委員)

林です。今、先生のお話を聞いていると、実際にここで会議に出て知っ
ているのと、市民の皆さんが見て考えることでは、確かに違う意見になる

場合もあると思います。私も、商売をやっている、どちらかというと運輸関係の仕事をしているので、お客さんにバスの利用の価値とかいうことを聞く機会が少ないですけど、高齢者の方とかの話を聞いていると、病院なんかに通うには非常に便利で良いんだけど、若くて買い物に出かけたりする方にとっては時間がかかるのが気になるようです。

もう少し便数が増えるか、通るコースを変えてもらったり、一番良いのは、半分冗談半分本気だろうけど、道を歩いていて、バスが来たら手を上げると止まってくれて、拾ってくれるといいなという、素朴な意見ももらいます。田舎のほうの村、例えば豊根村とかではそういうバスが走っているらしいですよ。その話は冗談で聞いているんですけど、利用される方の身になってみると、あまりこう、会議のような堅いところで話しているよりも、そういう意見も聞きつつ、ルートなり便数なりを考えるのがいいんじゃないかなという思いがしましたので、今お話しさせていただきました。以上です。

(後藤委員)

後藤です。私は、春日地区に住んでいるんですけども、ブルールートができたことによって、清洲駅にすごく出やすくなったという意見をよく聞きます。それと、1時間に1本ずつありますので、時間の配分がしやすいとも聞きます。ただ、落合地区の方なんですけれども、前のルートではオレンジルートが走っていましたよね。今はブルールートになっているので、それを利用して、例えばはるひ呼吸器病院に行こうと思っても、循環ですので、すごく時間がかかってしまって、行きは良くても帰りが困るというのは聞きます。オレンジルートがあったときだと、行った時間と帰る時間が同じくらいだったと言っていました。

私自身、あまりバスは利用しないので、詳しいことはよく分からないのですが、ブルールートができて便利になったという声はよく聞きます。以上です。

(加藤委員)

私は、知り合いの方で、グリーンルートを使われるお客さんだと思うんですけど、福祉センターでよく降りられて、橋を渡って、中学校のほうに行かれる方がいまして、この前、どうしてもっと近くのバス停に行かないのと聞いたら、この時間にここでバスを降りて、そこから歩いて買い物に行くところだと言われました。ですからやはり、そういう声も聞いていただいて、グリーンルートについても少し考えていただけたらいいなと思います。

(鬼頭委員)

鬼頭です。色々お話ししたいことはあるんですが、まず、周知・認知に関してなんですけど、市民の方はご存じだと思いますが、年末に、「清須のくらしの便利帳」というものが配られたんです。ここの中に、「清須の旧跡」というのがあります。色々説明があって面白いんですが、よく見ると、その旧跡の地図は22ページに載っているんですけど、その少し前の、17ページにあるあしがるバスのルートとは全くリンクしていません。

タイムテーブルは、利用する気のある人は見ます。けれども、利用する気のない人は見ません。だけど、もしあしがるバスのルートマップに、この名所・旧跡のマークがついていれば、ここへ行くにはこのバスで行けるなという認識ができて、新たな需要を喚起することが可能になります。その後でその人がどうするかというのはまた別ですけども、少なくとも、関心は持たせることができます。まず知らせることが必要だというなら、そういった、役所の内部でもうちょっとしっかりと連携をとれないのかなと思いました。

それからもう一つ、別の視点なんですけれども、計画の資料編の中に人口の状況等が出ていまして、清須は比較的人口が多い状態になっています。そういうことが書かれているんですが、せっかくなので、人口ピラミッドもつけて欲しかったというのが一つ。さらに、全くの主観なんですけど、ヨシヅヤなんかを歩いていると、若い親子連れがたくさんいます。本当に、若い方が赤ちゃんを連れて歩いているわけです。その若い人たちをここにどれだけ定住させるか、それが要するにこのまちが便利かどうかということになってくるんですね。そのためには、色んなインフラの整備が必要なんですけど、交通のインフラというのは非常に大事なので、10年、20年、30年先を見越して、市のマスタープランの中に組み込む形でやっていただきたいなと思います。

あと、鉄道との関わりがあって、この会議の中にはおさまりきらない話がいっぱいあるんですけども、清須は、名古屋という大きなまちの横っちょにくっついている市だと見られがちです。名古屋のまちが戦争で焼けてしまって、遺跡だとか古いものがあまり残っていない、歴史の見えないまちで、駅前に高層ビルが建って、東京並みになったとみんな喜んでいますが、そのすぐ横に、歴史を残した清須のまちがあるんで、それをどうやって保存して、生かして、観光にするかというのが非常に大事です。これは前回もお話ししました。こっちの地域の人には、むしろ道が狭いだとか、そういうレベルで見えてしまっているんですけども、例えば、車は入れない道だとか、あるいは、あしがるバスだけは通すけども、自家用車の乗り入れを禁止するだとか、そういうまち並み保存をすることで、名古屋と差別化するというのが非常に大事だと思うんですね。

東京から来る場合だと、運賃は、名古屋までの運賃と、清洲駅までの運賃は同じです。ただ、東京駅で、名古屋までと言うと、乗車券は名古屋で切られてしまうので、名古屋から枇杷島や清洲へ行くと、追加料金がかかります。だから、切符を買うときに、特急券は名古屋まで、乗車券は清洲までというふうに買えば、名古屋までと同じ料金で来れるんです。これ、観光客の誘致に対してはすごく大きなメリットです。そのへんのことも考えたらどうかなと思いますけど、あしがるバスの会議の中では完全に逸脱しておりますので、もっと別の部署で市のマスタープランとして考えていただければと思います。

それからもう一つ、前も言いましたけど、名古屋鉄道の高架化が行われるそうです。だったら、新清洲と大里の間に一駅作るということも計画して欲しいし、それができないのであれば、JR清洲駅の西口改札を作るかどうかで大きな利用のメリットが変わってきます。JR清洲駅というのは稲沢市内にありまして、過去に、西口を作っても実際にそれで恩恵を受け

るのは当時の清洲町民だけで、稲沢市民はメリットを受けないという理由で拒絶されたことがあります。もう一度協議をして利便性を確保して、あそこにバスが入れるようになれば、春日地区の利便性はもっと増すと思います。長々と話をしましたが、以上にします。

(前田会長)

ありがとうございます。事務局、市民委員の皆さんからはこういうご意見がございますので、十分に考慮していただいて、よろしくお願いします。

(後藤企画政策課長)

ありがとうございました。

(前田会長)

他によろしいですか。

(加藤副会長)

バスが遅くて電車に乗ったほうが早いということで電車に乗っていただくのは大歓迎です。一番困るのは、バスが遅いので車で行く、というものです。自転車でももちろんいいんですが、自転車は通行環境があまり良くないというのがあります。

運賃は、栄生乗り換えでも、枇杷島分岐点経由の運賃になるんですね。名鉄の場合はそうですよね。ただ、ICカードであれば、繋がっていると見なしてその分安くなりますので、それを使っていたら全然いいですが。なので、鉄道を活用するというのは、できればいいですし、きちんとやっていかなきゃいけないかなと思います。

それから、今、鬼頭さんからトランジットモールの話が出ましたが、これは私自身もずっと言っていることで、ここの会議ではあまり言ったことがないですけど、清須に向いてるのかなと思います。ヨーロッパがみんなそれをやったのは、ヨーロッパの中心部は道が非常に狭いんで、それを全部壊して区画整理するののかという話になったからです。名古屋の場合は、戦災で全部燃えたので区画整理をして大きい道路にしたわけですけど、そうでない場合、狭い道路の中で都市機能をきちんと担保していくためには、車を入れることができないんだから、バスだとか路面電車とか、今のトレンドで言えばLRTとか言われるものを入れて、それで運んできて、駐車場はまちの外に作ってそこで乗り換えてもらうというのが一番いいよねということになりました。そのときに、その駐車場料金と路面電車とかバスの料金が一体になってすごく安いというものです。そういうチケットで乗ってもらえれば、まちの中で動くこともできるし、まちの中で車が走っていないところがあるんだったら、お酒を飲んで歩いていても安心です。子供が遊ぶのだから、車が来ないので安心して遊べます。ヨーロッパには露店というのが必ずあるので、そこで何か食べたりお酒を飲んだりもできて、広場が憩いの場になります。これは日本にはあまりない文化ですけど、そういうことだからできます。車が入ってこられないことを逆手にとって、まちを賑やかにすることができるというのがヨーロッパの特性です。

それこそ、ヨーロッパは日本よりもっと車社会なので、いわゆる自動車保有率は今でも高いです。なので、それに対抗しようとしたら、むしろ逆手にとってやるしかなくて、最近はそのがうまくいくようになってきたということです。清須はそういう構造のまちなので、いつかはそういうことをやっていかなきゃいけないんだろうなと思っています。大学で授業をしているときには、例えば清須なんかそうしたほうがいいんじゃないかと言っています。ですけど、こういう会議では言わないようにしています。現実的にそれをやろうとすると、色んなところから検討していかなくちゃいけなくて、現状だと車に依存してしまっているの、そう簡単にはできないからです。ただ、日本の場合どこか潮目が出てくるんじゃないかと思えます。

その一つのポイントというのは、若い方が車に乗らなくなっているということです。午前中に一宮で会議があったんですが、一宮のバス路線が、何かよく分からないけど利用が増えているところがでてきていまして、その大きな原因というのが、実は、若い方がバスに乗るということなんです。これは、一宮だけでなく、全国で見られる現象です。

今日の話で、ファミリー層という話も出ましたが、お年寄りよりもむしろ若い方が親子連れで乗るというのが多いです。最近、バリアフリーになることでベビーカーもかなり乗りやすくなってきたので、お母さんが赤ちゃんと一緒に乗るというのも、やりやすくなってきています。

そういう中で、やっぱり公共交通がそれをやっていかなきゃいけないねという流れが少しずつ出てくると思うので、その時に、清須が、今ある駅やあしがるバスの路線を活用しようとかいうことに結びついていったらいいなと思っています。ただ、今の計画であんまりそういうことを書くと、ますますどうしたのということになるかもしれませんが、例えば、趣旨及び位置づけの一番最後なのか、あるいは一番最初か、あとがきみたいなものがあるとしたらそこなのか分かりませんが、これからそういう社会になっていくので、清須もこの5年はこういうことをやるんだけど、将来そういうのを目指していきたいというのは、書いちゃってもいいかもしれないなというのは、今聞いていて思ったことです。すごく余計なことを言ったかもしれませんが。

(鬼頭委員)

今、加藤先生のお話を聞いて、思ったことがあります。日本とよその国を比べるとというのは、意味がないかもしれませんが、私はベルリンに6年間住んでいましたし、ウィーンにも仕事でたまに行っていました。

その中で思ったのは、公共交通機関が非常に使いやすいということです。使いやすいというのは、私にとって一番大きかったのは、安いということです。交通事業者に関係なく、この円の中のバス停あるいは電停、駅で降りればいくら、という仕組みなんです。分かりやすく言うと、清須に住んでいて、あしがるバスに乗って枇杷島駅まで来て、それから名古屋駅までJRを使って、それから地下鉄を使って栄まで行きましたといった場合に、510円くらいかかるんですが、これを、距離に応じて、例えば10kmくらいだとすると180円とか、そういう値段設定にしてしまうということです。それが、ドイツやオーストリアの交通の料金体系なんです。

これは、東京でも全く実現できていなくて、東京には色んな鉄道が乗り入れていますけど、運賃は合算額になってしまいます。そのために、ちょうど境目あたりで乗った場合、例えば、初台から新宿三丁目まで乗ろうとすると、京王線と都営地下鉄線を合算した運賃を払うことになって、非常に高くなります。ドイツやオーストリアは、そういうことがないようによくできているなとつくづく感動しました。

その代わり、自家用車の乗り入れは非常に厳しく制限されています。分かりやすい例ですと、ウィーンはリングの内側というのは本当に厳しいです。その代わり、トラムがいっぱい走っているの、飛び乗ったり、あるいは、歩いて来たらトラムが来たんで止めにいたり、あるいは、Uバーンの駅まで着いちゃったから、Uバーンに乗って行こうとか、そういうことが簡単にできます。日本もそんなまちになって欲しいなと思います。それはいつのことか分かりませんが、コミュニティバスというのはそのリングの中で走っているバスみたいなものですから、色んなところで色んな人をピックアップして駅まで運ぶとか、そういう仕組みとして成り立つ第一歩だろうと、将来的に考えるとそういうものの出発点だと位置づけて、都市計画をしていただきたいと思います。

さっきも言いましたが、古い町並みがたくさん残っていて、あれは放っておくと5年、10年後にはなくなっちゃうかもしれないというものがたくさんあるので、あれを何とか、どこかで残していきたいと思います。以上です。

(前田会長)

ありがとうございます。他に、委員さんよろしいですか。

それでは、ご質問もないようですので、ここでお諮りします。

本件に関して、事務局案の通りご承認いただくということで、よろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

3 その他

(前田会長)

それでは、これで協議事項の議題(2)を終わります。

以上で、本日本日予定されておりました議事は全て終了いたしました。

慎重にご審議いただきありがとうございます。

続きまして、次第の「3 その他」に移ります。

事務局から報告事項等がありましたらお願いします。

(次森企画政策課主事)

事務局から2点ご報告をさせていただきます。

本日の協議事項(1)でご承認をいただきました「令和元年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(案)」につきましては、いただいたご

指摘を踏まえて修正し、国土交通省へ提出させていただきます。

続きまして、協議事項（２）でご承認をいただきました「清須市地域公共交通計画（案）」については、ご案内しましたとおり、適宜修正を加えたうえで、２月５日（水）からパブリック・コメントを実施します。

事務局からは以上です。

（前田会長）

ありがとうございました。

この他のことで、委員の皆様から何かございますか。

（次森企画政策課主事）

愛知運輸支局様と、バス協会様からそれぞれチラシのご説明をお願いします。

（上井委員）

愛知運輸支局の上井です。お時間頂戴しましてすみません。二点だけ、お知らせがございます。

まず一点目は、白黒のリーフレットになりますけれども、「運行計画どおりに路線バスを運行していますか」ということで、12月中に、私どもの輸送・監査担当から各市町村に周知をしているものです。

簡単に言いますと、最終の停留所の手前で誰も乗っていなかったら、最終の一個手前の停留所で運行を中断してもいいですよ、効率的な運行ができますよ、ということなんですけれども、これを勝手にやっちゃうと違反になってしまうので、しっかり届け出をしてくださいということとです。また、これを運転手が勝手に判断するのではなくて、運行管理者の指示を仰いでやってくださいというものです。これは、運行事業者と市のほうでご承知いただければ結構です。

もう一点が、カラーで青と緑の両面のリーフレットになりますが、実は今、運輸業界というのは、どこもかしこも非常に人材が不足しています。私ども愛知運輸支局においては、以前からバスの乗務員確保などの行事をやっていたところですが、今年度は初めて、トラック、それからタクシーや整備事業者も加えた、モード横断的な就職相談会、それから運転乗車体験会というものを、一度に実施します。

これは、清須市さんからは若干遠いんですが、みよし市に、中部トラック総合研修センターという施設がございますので、そこで行います。もし可能でしたら、委員の皆さまにおかれましても、周りの方への周知ですとか、ご協力をいただければ幸いです。以上です。

（小林委員（代理））

愛知県バス協会の、小林の代理の栗木でございます。少しお時間をいただきましたので、机上に配付させていただきました、バス運転士合同就職説明会について案内させていただきます。

今、愛知運輸支局さんから言っていたように、運転士不足というのはどの業界にも起きているんですが、特にバス業界のドライバー不足が深刻な状況になっております。どのバス事業者も運転士確保に大変苦労し

ているという状況でございます。

このような状態が続きますと、愛知県においても、路線バスではまず不採算路線が切られ、比較的好調な路線であっても、運行回数を減らしたり、自治体のコミュニティバスの入札に参加できないというような事態になり兼ねません。

この合同就職説明会については、秋にやる予定でしたが、台風 19 号の影響により 2 月 8 日に延期になりました。愛知運輸支局さんの設定された 2 月 10 日に近い日程で申し訳ないのですが、私ども、JR ゲートタワーで行いますので、この機会に、広く関係者の方に周知いただきますようよろしくお願いしたいと思います。以上です。

(加藤副会長)

私からも一つよろしいですか。今準備していて、来週くらいには広報できると思うんですけど、3 月 4 日の午後に、豊田市駅の近く、あるいは愛環の新豊田駅の近くのところで、地域バス交通活性化セミナーというのを開催する予定です。これは、東京の財団がお金を出してくれているもので、年に三か所くらいやれるものです。今年、中部でやるということで、実はその場所を決める選定委員長は私で、名古屋でやるのはやめようよと言ったんですけど、やることになってしまいました。

その、やることにした理由が、自動運転についての話をということになったからです。自動運転はまだ 20 年くらいできませんけど、もし自動運転になったらどんな社会が来るのかなという話をするシンポジウムです。自動運転をしていく中で、運転士さんがだいぶ楽になるということもあります。今だと運転士さんはありとあらゆることをやらなくちゃいけませんけど、自動運転によってだいぶ仕事が軽減されるので、運転士不足の解消が課題になっていきますけど、そういう話とも関わってきます。自動運転の専門の先生に喋っていただいて、その後、専門じゃないですが、私とか、他の皆さんと話をします。地域公共交通のシンポジウムだとどうしてもギスギスするんですけど、たまにはこういうのも面白いかなと思っています。

ちなみに、豊田の公共交通は、非常に頑張っています。昨今の報道でもありますが、トヨタ自動車さんが公共交通に非常に力を入れています。豊田市駅の周りだけ見ても、驚くようなことをやっているのでも、それを見てもらうだけでもいいと思います。これを枇杷島駅でもやろうとか、ただ、お金が足りないことも多いので少し悔しいんですが、それを見ているだけでも、近未来を想像できると思います。それも合わせて来ていただきたいです。詳しくは私のホームページでも紹介しています。愛知運輸支局さんでも告知されると思いますが。以上です。

(前田会長)

ありがとうございました。他にはよろしいですか。

4 閉会

それでは、これをもちまして、令和元年度第 3 回清須市地域公共交通会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 052-400-2911 内線3213
--------	----------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

会 長 前田 繁一

署名委員 林 巖

署名委員 後藤 美奈子